

## 募金は何のために

外ヶ浜町立三厩小学校 5年 唐牛 海輝

「ぼくたちは、何のために募金活動をしているのだろう。」

昨年のことです。ぼくは、学校の委員会活動の中で、赤い羽根共同募金への協力をよびかける活動を行いました。その際に、ぼくはふとこう思ったのです。

募金とは何か、全く知らなかったわけではありません。その言葉や取り組みについては、今までもテレビや学校での活動を通して知っていました。実際に、募金に協力したこともあります。しかしそのときは、ただ何となく寄付をしていただけで、「そのお金がどう生かされていくのか」「募金活動にどんな意味があるのか」などというように、深く考えることはありませんでした。

そんなぼくが変わるきっかけとなったのは、赤い羽根共同募金の活動への参加でした。これまでと違い、募金を「する」側ではなく、募金を「してもらおう」側になりました。

「募金お願いします。」

と、最初は大きな声で呼びかけていました。すると、それに応えて募金してくれる人がいて、ぼくのお金ではないのに、うれしい気持ちになりました。

しかし、活動の途中で、だんだんと大きな声で募金を呼びかけることができなくなってきました。

「集めたお金は何に使われるのか。それも分からないまま、ぼくはみんなに募金を呼びかけていたんだ。」

目的も知らぬまま活動を行っていたことが恥ずかしく感じました。その出来事から、ぼくは赤い羽根募金についてもっと詳しく知ろうと、調べるようになりました。

調べてみると、集められたお金は、とても幅広い支援活動に生かされていることを知りました。特に、自分の身近なところにも、その支援の輪が広がっていることにおどろきました。ぼくの地域には高れい者がたくさん生活していますが、そんな方々やぼくたち小学生が安心して生活できるように、環境を整えていることを学びました。知らず知らずのうちに、多くの人々の善意に支えられて生活していたのだと、実感しました。

また、「赤い羽根」の意味についても知ることができました。赤い羽根は「勇気」と「良い行い」のシンボルであり、「たすけあい」「思いやり」「幸せ」の意味がこめられているのだと学びました。

これらのことを知り、募金活動は人と人のたすけあいの輪を広げる活動なのだと感じました。「困ったときはお互いさま」という心が、募金活動には表れているのだと思います。ぼくは、赤い羽根共同募金の意味や目的を理解することができた今だからこそ、今後も積極的に募金活動に参加していきたいと思います。そして、たくさんの人とたすけあいの輪を広げていきたいです。